



Catalyst 2950 および Catalyst 2955 スイッチ ブートローダ コマンド



(注)

ブートローダ コマンドは、Catalyst 2950 Long-Reach Ethernet (LRE) スイッチでのみ使用できます。

通常のブートローダ処理中は、ブートローダ コマンドライン プロンプトが表示されません。ブートローダ コマンドラインは、スイッチが手動ブートに設定されている場合、電源投入時自己診断テスト (POST) DRAM テスト中にエラーが発生した場合、またはオペレーティング システム (破壊されたソフトウェア イメージ) のロード中にエラーが発生した場合に使用できます。スイッチのパスワードを忘れた場合にも、ブートローダを使用できます。



(注)

Catalyst 2950 LRE スイッチのデフォルト設定を使用すると、スイッチに物理的にアクセスするエンドユーザは、スイッチの電源投入時にブート プロセスを中断して新しいパスワードを入力することにより、パスワードを失った状態から回復できます。Catalyst 2950 LRE スイッチのパスワード回復ディセーブル機能を使用すると、システム管理者は、この機能の一部をディセーブルにし、システムをデフォルト設定に戻すことに同意するだけでユーザがブート プロセスを中断できるようにすることにより、スイッチのパスワードへのアクセスを防止できます。パスワード回復をディセーブルにすることにより、ユーザはブート プロセスを中断してパスワードを変更できますが、コンフィギュレーション ファイル (config.text) および VLAN データベース ファイル (vlan.dat) は削除されます。詳細については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

ブートローダには、スイッチのコンソール ポート接続を 9600 bps で行うことによりアクセスできます。スイッチの電源コードを取り外し、電源コードの再接続中に **Mode** ボタンを押します。ポート 1 の上の LED が消灯してから 1 ~ 2 秒後に、**Mode** ボタンを放します。その後、ブートローダ **Switch:** プロンプトが表示されます。ブートローダは低レベルの CPU 初期化および POST を実行し、デフォルトのオペレーティング システム イメージをメモリにロードします。

boot

実行可能イメージをロードおよびブートして、コマンドライン インターフェイスを開始するには、**boot** ブートローダ コマンドを使用します。

boot [-post] filesystem:/file-url ...

構文の説明

-post	(任意) 拡張および総合 POST によってロードされたイメージを実行します。このキーワードを使用すると、POST の完了に要する時間が長くなります。
filesystem:	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
/file-url	(任意) ブート可能イメージのパス (ディレクトリ) および名前です。イメージ名ごとにセミコロンで区切ります。

デフォルト

スイッチは、BOOT 環境変数内の情報を使用して、自動的にシステムをブートしようとします。この変数が設定されていない場合、スイッチは、フラッシュ ファイル システム全体に再帰的に縦型検索し、最初の実行可能イメージをロードして実行しようとします。ディレクトリの縦型検索では、検出した各サブディレクトリを完全に検索してから元のディレクトリでの検索を続けます。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

引数を何も指定しないで **boot** コマンドを入力した場合、スイッチは、BOOT 環境変数が設定されていればその中の情報を使用して、システムを自動的にブートしようとします。**file-url** 変数にイメージ名を指定した場合、**boot** コマンドは指定されたイメージをブートしようとします。

ブートローダ **boot** コマンドのオプションを設定した場合は、このコマンドがただちに実行され、現在のブートローダ セッションだけに適用されます。これらの設定が保存されて次のブート処理に使用されることはありません。

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

例

次の例では、*new-image.bin* イメージを使用してスイッチをブートする方法を示します。

```
switch: boot flash:/new-images/new-image.bin
```

このコマンドを入力すると、セットアップ プログラムを開始するように求められます。

関連コマンド

コマンド	説明
set	コマンドに BOOT キーワードを追加して、特定のイメージを起動するように BOOT 環境変数を設定します。

cat

1 つ以上のファイルの内容を表示するには、**cat** ブートローダ コマンドを使用します。

```
cat filesystem:/file-url ...
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/file-url</i>	表示するファイルのパス (ディレクトリ) および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。
ファイルのリストを指定すると、各ファイルの内容が順次表示されます。

例

次の例では、フラッシュ メモリの **config.text** の内容を表示する方法を示します。

```
Switch: cat flash:/config.text
!
version 12.1
no service pad
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
service internal
!
hostname corp-bigboy
!
!
username admin privilege 15 password 0 cisco
!
<output truncated>
```

関連コマンド

コマンド	説明
more	1 つ以上のファイルの内容を表示します。
type	1 つ以上のファイルの内容を表示します。

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、**copy** ブートローダ コマンドを使用します。

copy [-b *block-size*] *filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url*

構文の説明

-b <i>block-size</i>	(任意) このオプションは、内部開発およびテスト専用です。
<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/source-file-url</i>	コピー元のパス (ディレクトリ) およびファイル名です。
<i>/destination-file-url</i>	コピー先のパス (ディレクトリ) およびファイル名です。

デフォルト

デフォルトのブロック サイズは 4 KB です。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 45 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

ファイルを別のディレクトリにコピーする場合は、そのディレクトリが存在していなければなりません。

例

次の例では、ルートにあるファイルをコピーする方法を示します。

```
switch: copy flash:test1.text flash:test4.text
.
File "flash:test1.text" successfully copied to "flash:test4.text"
```

ファイルがコピーされたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダ コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
delete	指定されたファイル システムから 1 つ以上のファイルを削除します。

delete

指定されたファイル システムから 1 つ以上のファイルを削除するには、**delete** ブートローダ コマンドを使用します。

```
delete filesystem:/file-url ...
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボードフラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/file-url</i>	削除するファイルのパス (ディレクトリ) および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。
各ファイルを削除する前に、確認を求めるプロンプトが表示されます。

例

次の例では、2 つのファイルを削除します。

```
switch: delete flash:test2.text flash:test5.text
Are you sure you want to delete "flash:test2.text" (y/n)?y
File "flash:test2.text" deleted
Are you sure you want to delete "flash:test5.text" (y/n)?y
File "flash:test2.text" deleted
```

ファイルが削除されたかどうかを確認するには、**dir flash:** ブートローダ コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
copy	コピー元からコピー先にファイルをコピーします。

dir

指定されたファイル システム上のファイルおよびディレクトリのリストを表示するには、**dir** ブートローダ コマンドを使用します。

```
dir filesystem:/file-url ...
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/file-url</i>	(任意) 内容を表示するパス (ディレクトリ) およびディレクトリ名です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

例

次の例では、フラッシュ メモリ内のファイルを表示する方法を示します。

```
switch: dir flash:
```

```
Directory of flash:/
```

```

  3  -rwx      1839   Mar 01 1993 00:48:15  config.text
 11  -rwx      1140   Mar 01 1993 04:18:48  vlan.dat
 21  -rwx        26   Mar 01 1993 00:01:39  env_vars
  9  drwx       768   Mar 01 1993 23:11:42  html
 16  -rwx     1037   Mar 01 1993 00:01:11  config.text
 14  -rwx     1099   Mar 01 1993 01:14:05  homepage.htm
 22  -rwx        96   Mar 01 1993 00:01:39  system_env_vars
```

```
15998976 bytes total (6397440 bytes free)
```

表 B-1 に、コマンドの出力に含まれるフィールドを示します。

表 B-1 dir のフィールドの説明

フィールド	説明
2	ファイルのインデックス番号
-rwx	ファイル権限は次のいずれか、またはすべてとなります。 <ul style="list-style-type: none"> • d : ディレクトリ • r : 読み取り可能 • w : 書き込み可能 • x : 実行可能
1644045	ファイルのサイズ
<date>	最終変更日
env_vars	ファイル名

関連コマンド

コマンド	説明
mkdir	1 つ以上のディレクトリを作成します。
rmdir	1 つ以上のディレクトリを削除します。

flash_init

フラッシュ ファイル システムを初期化するには、**flash_init** ブートローダ コマンドを使用します。

flash_init

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

フラッシュ ファイル システムは、通常のシステム動作中に自動的に初期化されます。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

フラッシュ ファイル システムは、通常のブート プロセス中に自動的に初期化されます。

このコマンドは、フラッシュ ファイル システムを手動で初期化します。たとえば、パスワードを忘れた場合には、回復手順中にこのコマンドを使用します。

format

指定されたファイル システムをフォーマットし、そのファイル システム内のすべてのデータを破棄するには、**format** ブートローダ コマンドを使用します。

format *filesystem:*

構文の説明

filesystem: フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



注意

このコマンドは慎重に使用してください。ファイル システム内のすべてのデータが破棄され、システムが使用不能になります。

fsck

ファイル システムの一貫性を確認するには、**fsck** ブートローダ コマンドを使用します。

fsck [-test | -f] filesystem:

構文の説明

-test	(任意) ファイル システム コードを初期化し、フラッシュ メモリ上で新しい POST を実行します。ファイル システムを構成するバイトごとに、広範なメモリ テストを実行します (メモリは破壊されません)。
-f	(任意) ファイル システム コードを初期化し、高速ファイル一貫性チェックを実行します。フラッシュ セクタ内の Cyclic Redundancy Check (CRC; 巡回冗長検査) は実行されません。
filesystem:	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。

デフォルト

ファイル システム チェックは実行されません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

進行中のファイル システム一貫性チェックを停止するには、スイッチの電源を切断してから、電源を再接続します。

例

次の例では、フラッシュ メモリ上で広範なファイル システム チェックを実行する方法を示します。

```
switch: fsck -test flash:
```

help

使用可能なコマンドを表示するには、**help** ブートローダ コマンドを使用します。

help

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

疑問符 (?) を使用して、使用可能なブートローダ コマンドのリストを表示することもできます。

load_helper

load_helper ブートローダ コマンドを使用して、1 つ以上のヘルパー イメージをロードおよび初期化し、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。

load_helper *filesystem:/file-url ...*

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/file-url</i>	ローダー初期化中に動的にロードするためのパス (ディレクトリ) およびロード可能なヘルパー ファイルのリストです。イメージ名はセミコロンで区切ります。

デフォルト

ヘルパー ファイルはロードされません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

load_helper コマンドは、HELPER 環境変数が設定されている場合にだけロード可能なファイルを検索します。

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

memory

メモリ ヒープ使用率情報を表示するには、**memory** ブートローダ コマンドを使用します。

memory

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

例

次の例では、メモリ ヒープ使用率情報を表示する方法を示します。

```
switch: memory
Text: 0x00700000 - 0x0071cf24 (0x0001cf24 bytes)
Rotext: 0x00000000 - 0x00000000 (0x00000000 bytes)
Data: 0x0071cf24 - 0x00723a0c (0x00006ae8 bytes)
Bss: 0x0072529c - 0x00746f94 (0x00021cf8 bytes)
Stack: 0x00746f94 - 0x00756f94 (0x00010000 bytes)
Heap: 0x00756f98 - 0x00800000 (0x000a9068 bytes)
```

```
Bottom heap utilization is 22 percent.
Top heap utilization is 0 percent.
Total heap utilization is 22 percent.
Total bytes: 0xa9068 (692328)
Bytes used: 0x26888 (157832)
Bytes available: 0x827e0 (534496)
```

```
Alternate heap utilization is 0 percent.
Total alternate heap bytes: 0x6fd000 (7327744)
Alternate heap bytes used: 0x0 (0)
Alternate heap bytes available: 0x6fd000 (7327744)
```

表 B-2 に、この出力で表示されるフィールドの説明を示します。

表 B-2 メモリ フィールドの説明

フィールド	説明
Text	テキスト記憶領域の先頭および末尾アドレス。
Rotext	読み取り専用テキスト記憶領域の先頭および末尾アドレス。データ セグメントのこの部分は、Text エントリとともにグループ化されます。
Data	データ セグメント記憶領域の先頭および末尾アドレス。
Bss	Block Started by Symbol (Bss) 記憶領域から始まるブロックの先頭および末尾アドレス。ゼロに初期化されています。

表 B-2 メモリ フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Stack	自動変数やリターン アドレスなどを格納するためにソフトウェアに割り当てられたメモリ領域の先頭および末尾アドレス。
Heap	メモリの割り当ておよび解放が動的に行われるメモリ領域の先頭および末尾アドレス。

mkdir

指定されたファイル システムに 1 つ以上のディレクトリを新規作成するには、**mkdir** ブートローダ コマンドを使用します。

```
mkdir filesystem:/directory-url ...
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/directory-url</i>	作成するディレクトリの名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

例

次の例では、ディレクトリ `Saved_Configs` を作成する方法を示します。

```
switch: mkdir flash:Saved_Configs
Directory "flash:Saved_Configs" created
```

次の例では、2 つのディレクトリを作成する方法を示します。

```
switch: mkdir flash:Saved_Configs1 flash:Test
Directory "flash:Saved_Configs1" created
Directory "flash:Test" created
```

ディレクトリが作成されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダ コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
dir	指定されたファイル システムのファイルおよびディレクトリのリストを表示します。
rmdir	指定されたファイル システムから 1 つ以上のディレクトリを削除します。

more

1 つ以上のファイルの内容を表示するには、**more** ブートローダ コマンドを使用します。

more *filesystem:/file-url ...*

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/file-url</i>	表示するファイルのパス (ディレクトリ) および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。
ファイルのリストを指定すると、各ファイルの内容が順次表示されます。

例

次の例では、2 つのファイル内容を表示する方法を示します。

```
switch: more flash:/new-images/info flash:env_vars
```

関連コマンド

コマンド	説明
cat	1 つ以上のファイルの内容を表示します。
type	1 つ以上のファイルの内容を表示します。

rename

ファイルの名前を変更するには、**rename** ブートローダ コマンドを使用します。

```
rename filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/source-file-url</i>	元のパス (ディレクトリ) およびファイル名です。
<i>/destination-file-url</i>	新しいパス (ディレクトリ) およびファイル名です。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 45 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

例

次の例では、ファイル *config.text* の名前を *config1.text* に変更します。

```
switch: rename flash:config.text flash:config1.text
```

ファイル名が変更されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダ コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
copy	コピー元からコピー先にファイルをコピーします。

reset

システムのハードリセットを実行するには、**reset** ブートローダ コマンドを使用します。ハードリセットを行うと、スイッチの電源切断後に電源を投入する手順と同様に、プロセッサ、レジスタ、およびメモリの内容が消去されます。

reset

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

例

次の例では、システムをリセットする方法を示します。

```
switch: reset
Are you sure you want to reset the system (y/n)?y
System resetting...
```

関連コマンド

コマンド	説明
boot	実行可能イメージをロードおよびブートして、コマンドライン インターフェイスを開始します。

rmdir

指定されたファイル システムから 1 つ以上の空のディレクトリを削除するには、**rmdir** ブートローダ コマンドを使用します。

```
rmdir filesystem:/directory-url ...
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/directory-url</i>	削除する空のディレクトリのパス (ディレクトリ) および名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字で、大文字と小文字の区別があります。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、およびコロンは使用できません。

ディレクトリを削除する前に、まずディレクトリ内のファイルをすべて削除する必要があります。各ディレクトリを削除する前に、確認を求めるプロンプトが表示されます。

例

次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
switch: rmdir flash:Test
```

ディレクトリが削除されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダ コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
dir	指定されたファイル システムのファイルおよびディレクトリのリストを表示します。
mkdir	指定されたファイル システムに 1 つ以上のディレクトリを新規作成します。

set

ブートローダまたはスイッチ上で稼働している他のソフトウェアを制御するために使用できる環境変数を設定したり、表示したりするには、**set** ブートローダ コマンドを使用します。

set variable value



(注)

通常環境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

構文の説明

variable value *variable* および *value* には、次に示すキーワードのいずれかを使用します。

MANUAL_BOOT : スイッチを自動でブートするか、または手動でブートするかを決定します。

有効値は 1、yes、0、および no です。no または 0 に設定されている場合、ブートローダはシステムを自動的に起動しようとします。他の値に設定されている場合は、ブートローダ モードから手動でスイッチを起動する必要があります。

BOOT filesystem:/file-url : 自動ブート時にロードおよび実行される実行可能ファイルのセミコロン区切りリストです。

BOOT 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュ ファイル システム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。BOOT 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュ ファイル システムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。

ENABLE_BREAK : サービス ポート上の Break キーを使用して自動ブート プロセスを中断できるかどうかを決定します。

有効値は 1、yes、on、0、no、および off です。1、yes、または on に設定されている場合は、フラッシュ ファイル システムの初期化後にサービス ポート上で Break キーを押して、自動ブート プロセスを中断できます。

HELPER filesystem:/file-url : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストです。ヘルパー ファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。

PS1 prompt : ブートローダ モードの場合に、コマンドライン プロンプトとして使用される文字列です。

CONFIG_FILE flash:/file-url : ソフトウェアがシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名です。

CONFIG_BUFSIZE size : ソフトウェアがコンフィギュレーション ファイルのコピーをメモリ内に保持するために使用するバッファ サイズです。コンフィギュレーション ファイルは、バッファ サイズ割り当てを超えることはできません。指定できる範囲は 4096 ~ 524288 バイトです。

BAUD rate : サービス ポートで使用される速度 (ビット/秒単位) です。コンフィギュレーション ファイルに別の設定が指定されていない限り、ソフトウェアはブートローダからボー レート設定を継承し、この値を引き続き使用します。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 bps です。有効値は、50、75、110、150、300、600、1200、1800、2000、2400、3600、4800、7200、9600、14400、19200、28800、38400、56000、57600、115200、および 128000 です。

最も一般的な値は、300、1200、2400、9600、19200、57600、および 115200 です。

BOOTHLP *filesystem:/file-url* : 2 つめの Cisco IOS イメージをメモリにロードして起動できるようにするために、最初にメモリにロードされる Cisco IOS ヘルパー イメージの名前です。この変数は、内部開発およびテスト専用です。

HELPER_CONFIG_FILE *filesystem:/file-url* : Cisco IOS ヘルパー イメージで使われるコンフィギュレーション ファイルの名前です。このコマンドが設定されていない場合は、**CONFIG_FILE** 環境変数によって指定されたファイルがロードされたすべてのバージョンのソフトウェア (ヘルパー イメージを含む) で使用されます。この変数は、内部開発およびテスト専用です。

PASSWD_RECOVERY : パスワード回復オプションをイネーブルまたはディセーブルにします。指定できる値は **yes**、**1**、**no** または **2** です。デフォルトは **yes** です。

REBOOT_AFTER_CRASH : 異常終了後に、スイッチを再起動するよう設定します。指定できる値は **yes**、**1**、**no** または **2** です。デフォルトは **yes** です。

デフォルト

環境変数のデフォルト値は、次のとおりです。

MANUAL_BOOT: No (0)

BOOT: ヌル スtring

ENABLE_BREAK : no (off または 0) (サービス ポート上で **Break** キーを押して自動ブート プロセスを中断することはできません)

HELPER: デフォルト値はありません (ヘルパー ファイルは自動的にロードされません)。

PS1: switch:

CONFIG_FILE: config.text

CONFIG_BUFSIZE: 32 KB

BAUD: 9600 bps

BOOTHLP: デフォルト値はありません (ヘルパー イメージは指定されません)。

HELPER_CONFIG_FILE: デフォルト値はありません (ヘルパー コンフィギュレーション ファイルは指定されません)



(注)

値が設定された環境変数は、各ファイルのフラッシュ ファイル システムに保存されています。これらのファイルの各行に、環境変数名と等号、その後に変数の値が格納されています。このファイルに表示されていない変数には値がありません。表示されていればヌル スtringであっても値があります。ヌル スtring (たとえば " ") に設定されている変数は、値が設定された変数です。多くの環境変数は事前に定義されており、デフォルト値が設定されています。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

環境変数は大文字と小文字の区別があり、指定どおりに入力する必要があります。

値を持つ環境変数は、フラッシュ ファイル システムの外にあるフラッシュ メモリに保存されます。

通常の環境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL_BOOT 環境変数は、**boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

BOOT 環境変数は、**boot system filesystem:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ENABLE_BREAK 環境変数は、**boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

HELPER 環境変数は、**boot helper filesystem:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

CONFIG_FILE 環境変数は、**boot config-file flash:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

HELPER_CONFIG_FILE 環境変数は、**boot helper-config-file filesystem:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ブートローダのプロンプト スtring (PS1) には、等号 (=) を除く、出力可能な文字列を 120 文字まで指定できます。

例

次の例では、ブートローダのプロンプトを変更する方法を示します。

```
switch: set PS1 loader:
loader:
```

設定を確認するには、**set** ブートローダ コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
unset	1 つ以上の環境変数を元の設定に戻します。

type

1 つ以上のファイルの内容を表示するには、**type** ブートローダ コマンドを使用します。

```
type filesystem:/file-url ...
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	フラッシュ ファイル システムのエイリアスです。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。
<i>/file-url</i>	表示するファイルのパス (ディレクトリ) および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。
ファイルのリストを指定すると、各ファイルの内容が順次表示されます。

例

次の例では、2 つのファイル内容を表示する方法を示します。

```
switch: type flash:/new-images/info flash:env_vars
```

関連コマンド

コマンド	説明
cat	1 つ以上のファイルの内容を表示します。
more	1 つ以上のファイルの内容を表示します。

unset

1 つ以上の環境変数をリセットするには、**unset** ブートローダ コマンドを使用します。

unset variable ...



(注)

通常の環境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

構文の説明

variable

variable には、次に示すキーワードのいずれかを使用します。

MANUAL_BOOT : スイッチを自動でブートするか、または手動でブートするかを決定します。

BOOT : 自動ブート時に、実行可能ファイルのリストをリセットして、ロードおよび実行します。**BOOT** 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュ ファイル システム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。**BOOT** 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュ ファイル システムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとしします。

ENABLE_BREAK : フラッシュ ファイル システムの初期化後に、サービス ポート上の **Break** キーを使用して自動ブート プロセスを中断できるかどうかを決定します。

HELPER : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストです。ヘルパー ファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。

PS1 : ブートローダ モードの場合に、コマンドライン プロンプトとして使用される文字列です

CONFIG_FILE : ソフトウェアがシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名をリセットします。

CONFIG_BUFSIZE : ソフトウェアがコンフィギュレーション ファイルのコピーをメモリ内に保持するために使用するバッファ サイズをリセットします。

BAUD : サービス ポートで使用される速度 (ビット/秒単位) をリセットします。コンフィギュレーション ファイルに別の設定が指定されていない限り、ソフトウェアはブートローダからボー レート設定を継承し、この値を引き続き使用します。

BOOTHLP : 2 つめの Cisco IOS イメージをメモリにロードして起動できるようにするために、最初にメモリにロードされる Cisco IOS ヘルパー イメージの名前をリセットします。この変数は、内部開発およびテスト専用です。

HELPER_CONFIG_FILE : Cisco IOS ヘルパー イメージで使用されるコンフィギュレーション ファイルの名前をリセットします。このコマンドが設定されていない場合は、**CONFIG_FILE** 環境変数によって指定されたファイルがロードされたすべてのバージョンのソフトウェア (ヘルパー イメージを含む) で使用されます。この変数は、内部開発およびテスト専用です。

PASSWD_RECOVERY : パスワード回復オプションをリセットします。

コマンドモード ブートローダ

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

通常的环境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL_BOOT 環境変数は、**no boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

BOOT 環境変数は、**no boot system** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

ENABLE_BREAK 環境変数は、**no boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

HELPER 環境変数は、**no boot helper** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

CONFIG_FILE 環境変数は、**no boot config-file** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

HELPER_CONFIG_FILE 環境変数は、**no boot helper-config-file** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

例

次の例では、プロンプト スtring を元の設定にリセットする方法を示します。

```
switch: unset PS1
switch:
```

関連コマンド

コマンド	説明
set	環境変数を設定または表示します。

version

ブートローダのバージョンを表示するには、**version** ブートローダ コマンドを使用します。

version

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(11)YJ	このコマンドが追加されました。

例

次の例では、ブートローダのバージョンを表示する方法を示します。

```
switch: version
C2950 Boot Loader (C2950-HBOOT-M) Version 12.1(14)EA1
Compiled Wed 21-Feb-01 14:58 by devgoyal
switch:
```